

し而してヨシエラエルの支派の區別にまたがひ之を興へて産業となさしめたり、遂に此地も戦争

やみぬ 倍ヨルダンの彼旁日の出る方に於てアルノンの谷よりヘルモン山および東アラバの全土

までの間かてイスラエルの子孫が撃はらばして地を取たりし其國の王等ハ左のごとし、先アモリ人の王

シホッパ、彼ハヘシホッパに住をれり其治めたる地ハアルノンの谷の端なるアロエルより谷の中の邑および

ギレアドの半を括てアモンの子孫の境界なるヤボク河にいたり、アラバをキネチレラの海の東まで括

またアラバの海すなを離海の東におよびベテラエラの路にいたり南の方ビスガの山腹にまで達す

次ハレバエムの殘餘ありしパシヤンの王オガの國境を言んに彼ハアラバとエラレイに住をり

ヘルモン山、サレカ、およびパシヤンの全土よりしてゲニリ人、マアカ人およびギレアドの半を治めて

シホッパの王シホッパと境を接ス、ニカバの僕モイセラエルの子孫ととも彼らを撃はらばせり而して

ニカバの僕モイセラエルの支派の半に興へて産業となさしむ、また

ヨルダンの世西の方においてレバノンの谷のアルガドよりセルカ山の上途なるハラク山までの間に

てヨシエラエルの子孫が撃はらばして其國の王等ハ左のごとし、ヨシエラエルの支

派の區別にまたがひその地をわたへて産業となさしむ、是ハ山地、平地、アラバ、山腹、荒野、南の地なを

してヘラ人、アモリ人、カナナン人、ベリシ人、ヒビ人、エブス人等、有ちたりし者あり、ニシケの王一人、

タルの邊なるアイの王一人、エラサレムの王一人、ヘテロンの王一人、ヤルムスの王一人、ラキシの王

一人、ニシケの王一人、ゲセルの王一人、テベルの王一人、ホルマの王一人、アラバ

一八合せて三十一王、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

一八合せて三十一王、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、ヨシエラエルの支派の諸王に、

どの地 ヲモテルア、グシエル人及びマカ人の境界を沿る地へルモツ山の至土サルカでバシヤン一圓
アムドロラおよびエテラレイハホて世を治めしバシヤンの王オガグの全國オガグハレバヤムの餘民の遺れる
者なりモ一セこれらを撃て逐はらへり、但しグシエル人およびマカ人のイスラエルの子孫これを逐は
らざざりき、グシエル人とマカ人ハ今日までイスラエルの中に住をを
唯一レビの支派ハレヨエ何
の産業をも與へざりき、是イスラエルの神エホバの灰祭これが産業たればあり其れか言ふたまひしが如
し、モ一セ、ルベンの子孫はろの宗族に去たがひて與ふる所ありし、ろの境界の内ハル
の谷の地なるアロニルよりあたの地、谷の中なる邑、メヂバの邊の一切の平地、ヘシボンおよびその
平地の一切の邑々、チボソ、パモラ、バアラ、ベテラ、メダ、メテラ、マバアラ、キリアン
ム、シアラ、谷中の山のセラシヤル、ベラベアル、ヒスガの山頂、ベラエモラ、平地の一切の邑々、
ヘシボンて世を治めしアモリ人の王シホソの全國、エトヒ、レカム、ツル、
ホルおよびレバビとあせせて撃て逐せり、是みなシホソの大臣にしてその地に住せりし者あり、イスラエ
ルの子孫またベアルの子孫盤師バラマをも及わかつてろの外を殺せし者等どもも殺せり、ルベンの子
孫ハヨルスタおよびろの河岸をもて已の境界とせり、ルベンの子孫がろの宗族も循がひて獲たる産業ハ
是のてとくにして邑も村もてれば准らふ、モ一セまたガドの子孫たるガドの支派もろの宗族もまた
がひて與ふる所ありし、ろの境界の内ハヤセル、ギレアドの一切の邑々、アソモツの子孫の地の半、
バの前なるアロニルまでの地、ヘシボンよりトラマツツまでの地およびベトニム、マナナムよりテ
ルの境界までの地、谷をわいてハシラハラム、ベラニムラ、マコテ、サボソなどヘシボンの王シホソの

ヲ一節二五

チ一節二四

チ一節二三

チ一節二二

チ一節二一

チ一節二〇

チ一節一九

チ一節一八

チ一節一七

チ一節一六

チ一節一五

チ一節一四

チ一節一三

チ一節一二

チ一節一一

チ一節一〇

チ一節九

チ一節八

チ一節七

チ一節六

チ一節五

チ一節四

チ一節三

チ一節二

チ一節一

チ一節二五

チ一節二四

チ一節二三

チ一節二二

チ一節二一

チ一節二〇

チ一節一九

チ一節一八

チ一節一七

チ一節一六

チ一節一五

チ一節一四

チ一節一三

チ一節一二

チ一節一一

チ一節一〇

チ一節九

チ一節八

チ一節七

チ一節六

チ一節五

チ一節四

チ一節三

チ一節二

チ一節一

チ一節〇

チ一節〇

チ一節〇

チ一節〇

チ一節〇

チ一節〇

チ一節〇

國の残れる部分ヨルスタおよびその河岸よりしてヨルダンの東の方キシレテの海の岸までの地、二八
の、子孫がその宗族もまたがひて獲たる産業ハ是のてとくして邑も村もてれば准らふ、モ一セまたヤ
サセの支派の半も與ふる所ありき、是すまたちマナセの支派の半もその宗族もまたがひて與へしなり
その境界の内ハマナシムより此方の地、バシヤンの至土、バシヤンの全國、バシヤンとある
ヤルの一切の邑々、其六十の邑、ギレアドの半、バシヤンとあはれるオガグの國の邑々、アムドロラ
およびエテラレイ、是等ハマナセの子マキルの子孫も歸せり、即ちマキルの子孫の半、その宗族もまたがひて
之を獲たり、ヨルダンの東の方ホテエリコも對ひたるモアツの野をてモ一セの分ちも與へし産業ハ是
のてとくしてレビの支派ハレモ一セ何の産業をも與へざりき、イスラエルの神エホバこれが産業たれば
なり其れら言ふたまひし如し
イスラエルの子孫ガカナソの地をて取し、ろの産業の地ハ左のてとくし、則ち祭司エラガル、
スソの子ヨシヤス、およびイスラエルの子孫の支派の族長等これを彼らに分ち、エホバのモ一セおよび
命じたまひしおとく産業の鏡をよりて之を九の支派および半の支派も與ふ、其ハヨルダンの彼旁をて
一セ巴ホの二の支派と半の支派に産業を與へたればあり、但しレビ人に之の中に産業を與へざりき
は、是ハヨセフの子孫マナセ、エラレイの二の支派と成たるに因て然り、レビ人にハ此地をわいて何の分
をも與へず、唯ろの住べき邑々およびろの家畜と貨財を置くが地を興へしのみ、イスラエルの子孫エホ
バのモ一セも命じたまひし、てとく行ひてろの地を分てり、○最もエホバの子孫ギルガルがわてヨシヤスの許
お寄りてニズ、エムンツの子カレテ、ヨシヤスも言けるハ、エホバカレテヨシヤスわて我と汝との事わつ

さて神のハモ一セお告たまひし事あり汝これを知るニホバの僕モ一セ此地を疑せんとて我をカナ
 シバルアより遣せし時我ハ四十歳ありき今の時我ハ心お思ふまわし彼を復命せたり我ととも
 お上り住しわが兄弟等ハ民の心を撻くことを爲たりしが我ハ至く我神ニホバを從へりこの日モ一セ誓
 ひて言けらく汝の足の踐たる地ハ必ず永く汝と汝の子孫の産業とあるべし汝まつたく我神ニホバを從
 ひたればなりとニホバの言をモ一セ語りたまひし時より已來イタラエルが荒野を歩みたる此四十
 五年の間かく其のたまひし如く我を生存らへさせたまへり視我ハ今日までハ八十五歳ある今日
 もなほモ一セの我を遣はしたりし日のでとく健剛あり我の今の力ハかの時の力のでとくわして出入し戰
 闘をなすお堪ふ然必彼日ニホバの語りたまひし此山を我お興へよ汝も彼日聞たる如く彼處ホハナキ
 人を作りその邑々の大にして堅固かり然ながらニホバわれどとも在して我つひにニホバの宣ひてとて
 彼らを逐はらふことを得たヨシエアエラエラの子ガレブを祝しニホバをこれに興へて産業とな
 せむは是をもてニホバ今日までクニス人エラエラの子ガレブの産業とありを是ハ彼まつたくイ
 ナエラ神ニホバに從ひたればなりニホバの名ハ元ハキリアラエラと曰ふアルハアラエラナキ人
 の中の最も大なる人ありき勢にいたりてその地に戰爭をのみぬ
 ニホバの子孫の支派がその宗族にまがひて獲たる地ハエラエラの子ガレブの境界に達し南の方ガ
 川の荒野にわたりて南の極端に及ぶその南の境界と鹽海の極端なる南に向へり入海より起りアラ
 エラの坂の南にわたりてガレブに進みカサバエラエラの子ガレブの南より上りてニホバの境界に上ハ
 きてカレカに環りアラエラに進みてエラエラの河にまがひて達しその境界海にいたりて盡く汝らの南の境

チ 東四三節四節
 一 東三八節六
 二 東三三節二節
 三 東三八節三節
 四 東三八節三節
 五 東三八節三節
 六 東三八節三節
 七 東三八節三節
 八 東三八節三節
 九 東三八節三節
 十 東三八節三節
 十一 東三八節三節
 十二 東三八節三節
 十三 東三八節三節
 十四 東三八節三節
 十五 東三八節三節
 十六 東三八節三節
 十七 東三八節三節
 十八 東三八節三節
 十九 東三八節三節
 二十 東三八節三節
 二十一 東三八節三節
 二十二 東三八節三節
 二十三 東三八節三節
 二十四 東三八節三節
 二十五 東三八節三節
 二十六 東三八節三節
 二十七 東三八節三節
 二十八 東三八節三節
 二十九 東三八節三節
 三十 東三八節三節
 三十一 東三八節三節
 三十二 東三八節三節
 三十三 東三八節三節
 三十四 東三八節三節
 三十五 東三八節三節
 三十六 東三八節三節
 三十七 東三八節三節
 三十八 東三八節三節
 三十九 東三八節三節
 四十 東三八節三節
 四十一 東三八節三節
 四十二 東三八節三節
 四十三 東三八節三節
 四十四 東三八節三節
 四十五 東三八節三節
 四十六 東三八節三節
 四十七 東三八節三節
 四十八 東三八節三節
 四十九 東三八節三節
 五十 東三八節三節
 五十一 東三八節三節
 五十二 東三八節三節
 五十三 東三八節三節
 五十四 東三八節三節
 五十五 東三八節三節
 五十六 東三八節三節
 五十七 東三八節三節
 五十八 東三八節三節
 五十九 東三八節三節
 六十 東三八節三節
 六十一 東三八節三節
 六十二 東三八節三節
 六十三 東三八節三節
 六十四 東三八節三節
 六十五 東三八節三節
 六十六 東三八節三節
 六十七 東三八節三節
 六十八 東三八節三節
 六十九 東三八節三節
 七十 東三八節三節
 七十一 東三八節三節
 七十二 東三八節三節
 七十三 東三八節三節
 七十四 東三八節三節
 七十五 東三八節三節
 七十六 東三八節三節
 七十七 東三八節三節
 七十八 東三八節三節
 七十九 東三八節三節
 八十 東三八節三節
 八十一 東三八節三節
 八十二 東三八節三節
 八十三 東三八節三節
 八十四 東三八節三節
 八十五 東三八節三節
 八十六 東三八節三節
 八十七 東三八節三節
 八十八 東三八節三節
 八十九 東三八節三節
 九十 東三八節三節
 九十一 東三八節三節
 九十二 東三八節三節
 九十三 東三八節三節
 九十四 東三八節三節
 九十五 東三八節三節
 九十六 東三八節三節
 九十七 東三八節三節
 九十八 東三八節三節
 九十九 東三八節三節
 一百 東三八節三節

界ハ是のでとくあるべしその東の境界ハ鹽海にしてヨルダンの河口に達す北の方の境界ハヨルダンの
 河口お入海より起り上りてアラエラにいたりてアラエラを北をきき上りてルベン人ガハンの石
 達しまたアコラの谷よりアベラに上りて北におもむき河の南にあるアラエラの坂に對するギルガルに
 向ひすみみてエラエラの水に達しエラエラにいたりて盡く又その境界ハベニエラエラの谷に沿て
 エラエラ人の地すなちエラエラの南の勝お上りゆきエラエラの谷の西面に横たる山の嶺に上るハレ
 バエラの谷の北の極處にあり而してその境界この山の嶺より起てマテラの水の泉源にいたりてマテラ
 山の邑々にわたりその境界起てアラエラにいたりて是すなちキリアラエラありその境界アラエラより
 西の方セイル山に環りヤリヤ山(すなはちサレツ)の北の勝をへてニホバの下りてマテラに沿て進み
 エラエラの北の勝おわたり起てマテラに至りマテラ山に進みマテラ山に達し海にいたりて盡く
 また西の境界ハ大海おいたりその濱をもて限すとエラの子孫がその宗族おまたがひて獲たる地の四方の
 境界と是のでとくニホバそのエラお命せられしおとくニホバの子ガレブの子孫に申さ
 てキリアラエラをすなちアラエラを興へてその分とあさむアルハアラエラの子ガレブかして
 よりアコラの子三人を逐はらへり是すなちアコラより出たるセシヤハ、アヘン、およびタルマイなり
 而して彼かしてよりアベラの民の所を攻上れりアベラの名は元ハキリアラエラといふハカレブ言け
 らくキリアラエラを擊つてこれを取る者お我女子ガレブを妻お興へんとクナエの子おしてカレブの
 弟おるオラエラといふ者これを取れカレブの女子ガレブを妻お興へたりアコラ適く時田
 野をその父お求ひてきてとてオラエラをオラエラ本勸め遂にみつから鹽馬より下れりカレブこれに何を望むやと

チ 東三八節四節
 一 東三八節六節
 二 東三八節六節
 三 東三八節六節
 四 東三八節六節
 五 東三八節六節
 六 東三八節六節
 七 東三八節六節
 八 東三八節六節
 九 東三八節六節
 十 東三八節六節
 十一 東三八節六節
 十二 東三八節六節
 十三 東三八節六節
 十四 東三八節六節
 十五 東三八節六節
 十六 東三八節六節
 十七 東三八節六節
 十八 東三八節六節
 十九 東三八節六節
 二十 東三八節六節
 二十一 東三八節六節
 二十二 東三八節六節
 二十三 東三八節六節
 二十四 東三八節六節
 二十五 東三八節六節
 二十六 東三八節六節
 二十七 東三八節六節
 二十八 東三八節六節
 二十九 東三八節六節
 三十 東三八節六節
 三十一 東三八節六節
 三十二 東三八節六節
 三十三 東三八節六節
 三十四 東三八節六節
 三十五 東三八節六節
 三十六 東三八節六節
 三十七 東三八節六節
 三十八 東三八節六節
 三十九 東三八節六節
 四十 東三八節六節
 四十一 東三八節六節
 四十二 東三八節六節
 四十三 東三八節六節
 四十四 東三八節六節
 四十五 東三八節六節
 四十六 東三八節六節
 四十七 東三八節六節
 四十八 東三八節六節
 四十九 東三八節六節
 五十 東三八節六節
 五十一 東三八節六節
 五十二 東三八節六節
 五十三 東三八節六節
 五十四 東三八節六節
 五十五 東三八節六節
 五十六 東三八節六節
 五十七 東三八節六節
 五十八 東三八節六節
 五十九 東三八節六節
 六十 東三八節六節
 六十一 東三八節六節
 六十二 東三八節六節
 六十三 東三八節六節
 六十四 東三八節六節
 六十五 東三八節六節
 六十六 東三八節六節
 六十七 東三八節六節
 六十八 東三八節六節
 六十九 東三八節六節
 七十 東三八節六節
 七十一 東三八節六節
 七十二 東三八節六節
 七十三 東三八節六節
 七十四 東三八節六節
 七十五 東三八節六節
 七十六 東三八節六節
 七十七 東三八節六節
 七十八 東三八節六節
 七十九 東三八節六節
 八十 東三八節六節
 八十一 東三八節六節
 八十二 東三八節六節
 八十三 東三八節六節
 八十四 東三八節六節
 八十五 東三八節六節
 八十六 東三八節六節
 八十七 東三八節六節
 八十八 東三八節六節
 八十九 東三八節六節
 九十 東三八節六節
 九十一 東三八節六節
 九十二 東三八節六節
 九十三 東三八節六節
 九十四 東三八節六節
 九十五 東三八節六節
 九十六 東三八節六節
 九十七 東三八節六節
 九十八 東三八節六節
 九十九 東三八節六節
 一百 東三八節六節

るカナッ人をバ還はらばぎりき、是をもてカナッ人は今日までニアラムの中に住み候となりて之に使

役せらる

「マナセの女派が饑ふよりて獲たる地は左の如しマナセハヨセフの長子ありき、マナセの

長子小してギレアドの父なる「キルは軍人なるが故ホギレアドはバシヤンを獲たり、此餘のマナセの子

等即ちアビエセルの子孫ハレクの子孫アメリエルの子孫シケムの子孫ヘベレルの子孫セミダの子孫ホドモ

その宗族おれたがひて獲る所ありき是等はヨセフの子マナセの宗族ハバシヤンに言ひて

り「マナセの子「キルその子「ギレアドその子「ヘベレルの子「シケムの子「ヘドモの子「ホドモの子のみありて

男の子からざりき、この女の子の名は「ヘラ、ホグラ、ミルカ、テラがといふ、彼等祭司「ギレアドガ、

マナセの長子ヨセフおよび長等の前ハ進み出て言ひて「我らの兄弟の中おて我らも亦産業を興へよと云

ハ「モナセ命と思きたまへり、ヨセフは「マナセの命おたがひて彼らの父の兄弟の中おて彼ら

おも産業を興ふ、マナセハヨルダンの彼旁にて「ギレアドおよび「バシヤンの地の外には十部の地を獲た

り、是ハマナセの女の子等もその男の子等の中にて産業を獲たればあり、ギレアドの地はマナセのその

餘の子等に屬す、マナセの境界は「アセルより「シケムまでの前なる「クマダラに及び右にかもびぎて「エラ

ブアの民に達す、マブアの地「マナセに屬す、但し「マナセの境界にある「マブア「エラ「マナセの子孫に

屬す、またその境界「ガナハの河に下りてその河の南に至る、是等の邑は「マナセの邑々の中におりて「エラ

「ムに屬す、マナセの境界は「ガナハの河の北にあり海にいたりて盡く、その南の「ガナハ「ムに屬す北の

「ガナハ「マナセに屬し海にこれら境界を成す、マナセハ北の「アセルに達し東は「サカルに達す、

イ創一五一四六廿
ロ創一五二四三六三
ハ創一五三三九六三
ニ創一五四三五六三
三創一五五三五五三
四創一五六三二五三
五創一五七二九五三
六創一五八二〇五三
七創一五九一五五三
八創一六〇一〇五三
九創一六一〇五五三
十創一六二〇〇五三
十一創一六二九五五三
十二創一六三九〇五三
十三創一六四八五五三
十四創一六五八〇五三
十五創一六六七五五三
十六創一六七七〇五三
十七創一六八六五五三
十八創一六九六〇五三
十九創一七〇五五五三
二十創一七一五〇五三

イ創一五一四六廿
ロ創一五二四三六三
ハ創一五三三九六三
ニ創一五四三五六三
三創一五五三五五三
四創一五六三二五三
五創一五七二九五三
六創一五八二〇五三
七創一五九一五五三
八創一六〇一〇五三
九創一六一〇五五三
十創一六二〇〇五三
十一創一六二九五五三
十二創一六三九〇五三
十三創一六四八五五三
十四創一六五八〇五三
十五創一六六七五五三
十六創一六七七〇五三
十七創一六八六五五三
十八創一六九六〇五三
十九創一七〇五五五三
二十創一七一五〇五三

は鐵の戰車を有をりかつ強くあれども汝これを透はらふことを得ん

をる可らず、山地をも汝の有とすべし、是は林なれども汝これを斬ひらきてその極處を獲べし、カナッ人

家すなち「エラ「マナセに語りて言ふ、汝ハ大なる民にして大なる力あり然れば只一鐵のみを取て

「マナセの郷里に在る者も「エラ「マナセの谷に在る者も、汝ハ大なる民にして大なる力あり然れば只一鐵のみを取て

にハ強しと言ふあり、ヨセフの子孫言けるハ山地ハ我らにハ足すかつ「エラ「マナセの地に在るカナッ人ハ「マナセ

「マナセの郷里に在る者も「エラ「マナセの谷に在る者も、汝ハ大なる民にして大なる力あり然れば只一鐵のみを取て

ら「マナセの郷里に在る者も「エラ「マナセの谷に在る者も、汝ハ大なる民にして大なる力あり然れば只一鐵のみを取て

て只一の鐵一分のみを我に興へしは何ぞや、ヨセフは「マナセの民に語りて言ふ、汝ハ大なる民にして大なる力あり然れば只一鐵のみを取て

孫「ヨセフに語りて言けるハ「マナセは今まで我を祝福たまひて我ハ大なる民となりけるに汝が産業にと

「マナセの子孫強くなるに及びてカナッ人を使役し之を盡く逐ことせざりき、

但し「マナセの子孫ハ是らの邑の民を逐らふことを得ざりければカナッ人の地に固く住むべし、

「エラ「マナセの郷里、「マナセの民、是等の郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

「マナセの郷里、

イ創一五一四六廿
ロ創一五二四三六三
ハ創一五三三九六三
ニ創一五四三五六三
三創一五五三五五三
四創一五六三二五三
五創一五七二九五三
六創一五八二〇五三
七創一五九一五五三
八創一六〇一〇五三
九創一六一〇五五三
十創一六二〇〇五三
十一創一六二九五五三
十二創一六三九〇五三
十三創一六四八五五三
十四創一六五八〇五三
十五創一六六七五五三
十六創一六七七〇五三
十七創一六八六五五三
十八創一六九六〇五三
十九創一七〇五五五三
二十創一七一五〇五三

は南かての境界の内をヨセアの地を挿き寫して七
 分どなし此にわが許に持きたれ我てよにて我等の神ニホアの爲に鑿を擧げレヒ人は汝
 らの中に何の分をも有さエホバの祭司となることをもて其産業とす又カバ、ルベ、およびナセの支派
 の半ヨルダンの彼旁東の方にて已にその産業を愛たり是エホバの僕モ一セの之を與へし者なりと
 ろの人々すなをち起て往り其地を挿き寫さんまで出ゆける此者等にヨセア命じて云ふ汝等ゆきてろ
 の地を歩きめり之を挿き寫して我に歸りきたれ我シロにて此にエホバの前にて汝らのために鑿を擧ぐん
 といふ人々ゆきてろの地を經めぐり邑にきたるはひて之を七分とせしめて書お挿き寫しシロの營を歸りてヨ
 シエアお語りければヨセアシロにて彼らのためにエホバの前にて鑿を擧げり而してヨセア彼所にてイ
 スラエルの子孫の區分おきたるはひて其地を分ち與へたり○さつベニヤミンの子孫の支派のためにその
 宗族にきたるはひて鑿を擧げり、その鑿によりて獲たる地の境界ハエダの子孫とヨセアの子孫の間にわたる
 十、即ちその北の方の境界ハヨルダンの北の脇に上り西の山地を逾てまた上りベテラアベ
 の荒野にいたりて盡く、彼處よりその境界ルズに進みルズの南の脇にいたる、ルズはベテラなり、而して
 其境界下ベテラホロの南に横たはる山に沿てアタラアアルに下り、延て西の方をて南に曲りベテラホロ
 ンの南面に横たはるところの山より進みエダの子孫の邑キリアパアル即ちキリアヤリヤにいたりて盡
 く、その西の境界は是のごとし、またその南の方にはキリアヤリヤの極處よりして西にかもむきてチラ
 トアの水の源にいたり、レバヤムの谷の中の北の方にてベニヒンヤムの谷の前に横たはる所の山の極處
 に下り其處よりしてヒンヤムの谷に下りてエダス人北の南の脇にいたり、エッロケルに下り北に延てエッ
 ン

第百一十節

第百一十一節

第百一十二節

第百一十三節

第百一十四節

第百一十五節

第百一十六節

第百一十七節

第百一十八節

第百一十九節

第百二十節

第百二十一節

第百二十二節

第百二十三節

第百二十四節

第百二十五節

第百二十六節

第百二十七節

第百二十八節

第百二十九節

第百三十節

第百三十一節

第百三十二節

第百三十三節

第百三十四節

第百三十五節

第百三十六節

第百三十七節

第百三十八節

第百三十九節

第百四十節

第百四十一節

第百四十二節

第百四十三節

第百四十四節

第百四十五節

シメシにおもひアトミの阪に對するガリロラおかもむルベ人ロハンの石まで下り、北の方に
 アラバに對する處おわたたりてアラバに下り、ベテラホラの北の脇にわたたりヨルダンの南の極にて鹽海の
 北の大海にいたりて盡く、その南の境界は是のごとし、東の方にレヨルダンの境界とある是すな
 ちベニヤミンの子孫の宗族にきたるはひて獲たる産業の周圍の境界あり、ベニヤミンの子孫の支派が
 その宗族にきたるはひて獲たる邑ハエリコ、ベテラホラ、エマククツツ、ベテラアバ、セアライム、テラ
 アビム、バラ、オフラ、クパルアンモン、オラニ、クバ、の十二邑ならびお之に屬する村々なり、ギベオン、
 ラマ、ベエロラ、ミツバ、ケビラ、モザ、レケム、イルビエル、アラ、セラ、エレフ、エブナすなはちエ
 サレム、ギベオン、キリアラの十四邑からびに之につける村々はなり、ベニヤミンの子孫の宗族にきた
 りて獲たる産業は是のごとし
 二十、次にシメシの子孫の支派のためにその宗族にきたるはひて鑿を擧げ、
 その産業はエダの子孫の産業の中にあり、その有る産業ハベエルシバ、即ちシバ、モラダ、ハサルシユ
 アル、バラ、エゼム、エルトラテ、ベトル、ホルマ、カラダ、ベテラカボラ、ハサルサ、ベテラレ
 クラ、シヤルへの十二邑並びに之につける村々、およびアイン、リンモン、テラ、アシャ、の四邑な
 り、及びに之につける村々、および此邑々の周圍にありてアララエエルすなはち南のラマまでに至るとよ
 うの一切の村々等あり、シメシの子孫の支派がその宗族にきたるはひて獲たる産業ハ是のごとし、シメ
 シの子孫の産業ハエダの子孫の分の申より出づ、エダの子孫の自分分のために多かりしに因てシメ
 シの子孫のこれの産業を彼らの産業の中に獲たるあり○第三にセバルの子孫のために其宗族おま

第百四十六節

第百四十七節

第百四十八節

第百四十九節

第百五十節

第百五十一節

第百五十二節

第百五十三節

第百五十四節

第百五十五節

第百五十六節

第百五十七節

第百五十八節

第百五十九節

第百六十節

第百六十一節

第百六十二節

第百六十三節

第百六十四節

自十八至十九章十節